

死はいつの世も変わりなく、すべての人に訪れます。古来より人々は身近な人の死を受け入れ、自分の人生の終焉^{しゅうえん}と向き合ってきました。その捉え方は時代によって異なりますが、本展示会では江戸時代の府中に暮らした人々の残した史料から、当時の死生観を探ります。

医療や福祉の発展により平均寿命が延びた現在、「人生100年時代」などと謳^{うた}われ始めました。その一方、この半世紀における家族形態の変化は、日々の生活や死後の埋葬に対する考え方にも影響を与えています。このような状況は、如何^{いか}に生きるかということに加え、どのように死を迎えるかということ、私たちに問いかけているのかもしれない。

多くの人が自宅で生涯を終えた江戸時代、死は日常の中にありました。突然の病氣により命を落とすことも、少なくなかったのです。このような時代^{こんにち}に生きた人々が「死」や「あの世」をどう捉えていたのか、彼らの意識を通して今日の「生」を考えてみたいと思います。



三途の川の渡し賃 府中市教育委員会蔵

展 示 構 成

I 江戸時代に至るまで

1. 忌む～死穢と埋葬～
2. 結ぶ～浄土への往生～
3. 変わる～庶民の埋葬と集団墓～

II 死に臨む

1. 葬る～ある江戸時代人の死～
2. 弔う～先祖供養と無縁仏～
3. 思う～逝く者と遺された者～



コレラ退治の獅子頭 大國魂神社蔵

III 病と闘う

1. 病む～史料に見る江戸時代の流行病～
2. 禦ぐ～病除けと養生～
3. 癒す～祈願と医薬～

IV 彼岸に渡る

1. 副える～あの世への持参品～
2. 迷う～国学者の彼岸と幽霊～
3. 巡る～江戸時代の地獄極楽～

記念講演会

① 江戸時代の死・病・あの世

日 時:2月16日(日) 14:00～16:00
講 師:当館学芸員

② ご臨終の近代

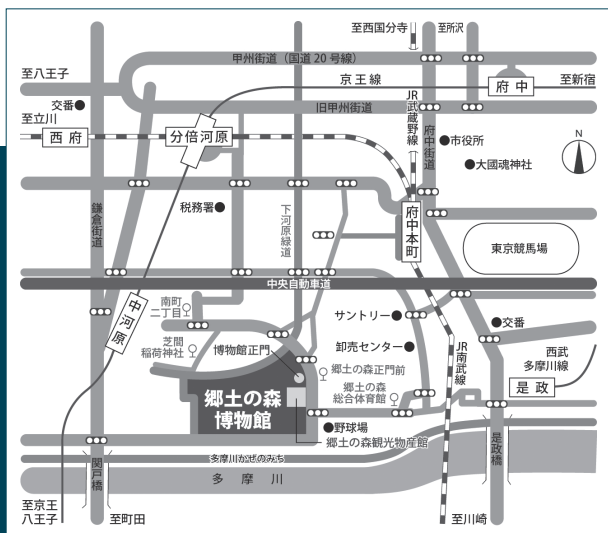
日 時:3月1日(日) 14:00～16:00
講 師:土居 浩氏(ものづくり大学教授)

会 場:本館1階大会議室
定 員:各回80名

受 講 料:各回200円(博物館入場料が別に必要です)

申込方法:往復はがきに住所、氏名、電話番号、希望講演会名(2講演同時申込可)、返信用宛名を明記のうえ、2/3月まで(当日消印有効)。申込み多数の場合は抽選。

宛 先:〒183-0026 東京都府中市南町6-32
府中市郷土の森博物館「記念講演会係」



府中市郷土の森博物館

〒183-0026 東京都府中市南町6-32 Tel.042-368-7921
<http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/>

■ 路線バス

京王線・JR南武線「分倍河原駅」南側駅前ロータリーから「郷土の森総合体育館」行きバス約6分「郷土の森正門前」下車すぐ

■ 徒歩

京王線・JR南武線「分倍河原駅」、JR武蔵野線・南武線「府中本町駅」、西武多摩川線「是政駅」より約20分

■ 府中コミュニティバス(ちゅうバス)

○京王線・JR南武線「分倍河原駅」または京王線「府中駅」から南町・四谷循環バス「よつや苑西」行き「南町二丁目」下車徒歩約6分
○京王線「中河原駅」から南町・四谷循環バス「府中駅」行き「芝間稲荷神社」下車徒歩約6分